

## 2021 年 8 月果実概況

西日本で降水量が記録的に多く、気温低下。東日本太平洋側は多雨、北日本日本海側では少雨。

平年より早く梅雨明けを迎え、8 月に入ると関東・東日本では猛暑日が続く。台風 9 号の発生や線状降水帯の停滞による豪雨で日本各地被害に見舞われた。また、新型コロナウイルスの変異株による感染拡大を受けて、緊急事態宣言下、無観客で東京オリンピックが開催され、メダルラッシュで盛り上がりを見せたものの、旧盆明け東京都の感染者は 1 日に 5,000 人を超えた。

果実全体の入荷量は前年比 109%、価格 546 円(前年比 98%)。各品種の生育は前進傾向だったことから、8 月上旬に多くの品種が出荷ピークを迎えたため、旧盆需要に対して桃・梨は品不足となった。また、旧盆以降の曇雨天により消費が低迷し、旧盆明けの取引は活気がなく、下旬からも果実全体の動きは鈍化した。

ハウスみかんは、入荷 85%、価格 917 円(99%)。8 月上旬の販売は「ハウスみかん」中心だったが、旧盆明けからは佐賀・愛知産「グリーンハウスみかん」に切り替わる。「ハウスみかん」は前倒し出荷で残量少なく入荷減も、価格は前年・平年並みに落ち着く。

りんご類は、入荷 125%、価格 363 円(72%)。長野産「夏あかり」が 7 月末、「シナノリップ」は 8 月第 1 週目に始まった。主力の「サンつがる」は東北産が 4 月の低温の影響を受け、小玉傾向も、生産量は前年並みで推移。貯蔵りんごの残量が前年に比べ大幅に多かったことから、「サンつがる」の価格は低迷し、前年の 3 割安となった。

日本なし類は、入荷 109%、価格 507 円(104%)。「幸水」は前進出荷や少雨の影響で肥大が弱いため、不作だった前年並みの数量まで落込み、旧盆需要を前に逼迫した。「豊水」は開花が平年よりも早く前進出荷傾向にあり、少なかった前年に比べ旧盆明けから増量した。

もも類は、入荷 104%、価格 690 円(105%)。山梨産は平年より 1 週間～10 日程度前進から、「白鳳」「川中島白桃」などは前年を下回る数量となり、長野産「白鳳」は春先の低温、福島産「あかつき」は凍霜害の影響と前進出荷で数量減が目立った。総体では少なかった前年並みも、平年比では入荷量は 3 割減、価格も 3 割高の結果となった。

すもも類は、入荷 117%、価格 665 円(98%)。山梨産は「太陽」、山形産は月を通して「ソルダム」の販売も、中下旬に「太陽」、長野産は「ソルダム」「サマーエンジェル」「貴陽」「太陽」と品種リレーを展開したが、各地前進傾向も生育は平年並みで、大玉傾向も受けて入荷増、単価安の展開。

ぶどう類は、入荷 117%、価格 1,498 円(101%)。「シャインマスカット」は各地成木化が進む。ハウス物中心で長野産は作業遅れによる出荷減があっても、前年に比べ 3 割増の入荷。「巨峰」「ピオーネ」も概ね生育順調に推移したが、旧盆需要から「巨峰」の引合いは強く、「ピオーネ」の動きは鈍化した。

いちじくは、入荷 79%、価格 891 円(101%)。主力愛知産は台風以降から続く降雨の影響で色つき悪く、産地ロスで出荷減少が続いた。回復は遅れたまま、和歌山産も露地物に切り替わったが、旧盆以降の大雨で数量はさらに減少した。

**メロン類**は、入荷115%、価格485円(89%)。北海道・青森産中心の出回り。北海道産メロンは作付面積減少も、作柄は概ね良く、肥大は平年並み、入荷量はほぼ前年並みに落ち着く。「アールスメロン」は静岡産が天候不順により下級品の比率が高く、茨城産は8月上旬にピークを迎えた。旧盆需要もあり、引合いは強めだが、業務需要は弱いことから、下等級品の販売苦戦が強いられた。

**すいか類**は、入荷117%、価格239円(91%)。大玉すいかも梅雨明けが早く、猛暑日が多かったことから、需要があり、荷動きは好調だった。各地、長雨で少なかった前年に比べ数量は潤沢にあり、価格は前年比1割安も、平年では3割近く高かった。